

南薩教育事務所だより

みなさんのライフキャリアはどのようなことですか

南薩教育事務所長

旅行、バレーボール、息子との時間、DIY…仕事以外の時間の過ごし方を振り返ってみると、年齢や置かれている状況等によって変化している。

このほど、鹿児島県教育委員会公式ホームページ（右画像）で、鹿児島県の教職員である20人の皆さんのライフキャリア図鑑が紹介された。

そこには、もの作り、スポーツ、家族との時間など、おのおのが楽しみや生きがいをもち、仕事以外の時間を楽しんだり、大切にしたりしながらライフキャリアを満喫しておられる姿があり、心が揺さぶられた。

最近の自分は、仕事以外の時間をどう過ごしているか、何を楽しみ活力を得ているかなど、改めて振り返ってみると「赴任地の探訪」が挙げられる。

現在は、南薩4市の広報誌やホームページ、道路沿いの看板、各種イベントなどあらゆる情報をたよりに、時間を見つけては南薩を探訪し、知見を広げたり、写真に収めポストカードを自作したり、研修会等で紹介をしたりしている。南薩は、豊かな自然、深い歴史・文化・伝統、フォトジェニックな景観、世界にも誇れる特産物など、圧倒的な魅力に溢れるところである。

☆☆☆南薩4市のフォトジェニックな景観☆☆☆



火の神公園からの立神岩



池田湖からの開聞岳



巨岩・奇岩を望むこせ渓谷



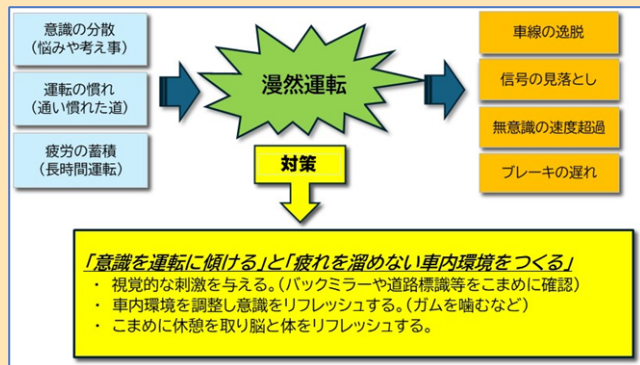
たかたの石切場

仕事以外の時間を楽しむことで、生活に潤いができたり、気持ちが浄化されたり、交流関係が広がったりするのではないかな。また、自己啓発や自己形成を深め、より豊かな自分の生き方をデザインしていくことができるのではないかと考える。

本県の教職員は、異動とともに県内各地に住むことができる。私自身は、これまでに赴任した様々な地において、有益な体験や多くの方々とのご縁を得るとともに、その土地ならではの魅力などにも、直に触れることができた。そのおかげで、多様な視点から、物事の価値や有用性を感じるなど意義深い時間を過ごせていると感じている。年齢を重ね、教職として新たな地に赴任できる好機はわずかとなってきたが、ふるさと鹿児島のだこかの地で「子供たちの未来を創る」教育に携われることにやりがいと喜びを感じつつ、余暇も楽しみながら、自分なりのワークライフバランスを保っていきたいと思っている。次は…？陶芸もしてみたい。

みなさんのライフキャリアはどのようなことですか





交通事故違反ゼロを目指して

本地区で発生した交通事故違反のほとんどは漫然（ぼんやりした状態）運転が原因です。漫然運転を引き起こす要因は考え事や疲労など複数あります。

漫然運転とならないために、運転中は「運転に意識を傾ける」こと、「疲れを溜めない車内環境をつくる」ことを常に心掛けましょう。

「おやこ手帳」の活用を

平成29年より地区社会教育振興会が作成している「おやこ手帳」は、子どもたちが小学校に入学した際にすべての家庭へ配付し、中学校卒業までの9年間活用できる家庭教育啓発資料です。

この度、令和8年度版においてリニューアルを行いました。まず、タイトルを「親子手帳」という表記から「おやこ手帳」とし、家庭内の親子にとどまらず、子どもの成長に関わるすべての大人を含む意味を込めています。

また、成長の記録や防災メモ等、これまでの手書きの良さを生かしながら、各ページに二次元コードを配置することで、児童生徒の学習用端末の活用を支援するとともに、各家庭においても最新の地域情報をより容易に活用できるようにしました。さらに、学級PTAや家庭教育学級においても活用できる内容としています。いつでも側に「おやこ手帳」を！ 日常的な活用を推奨します。



「学校支援専門官の学校訪問等について」



※生成AI「Copilot」で作成したイラスト

昨年度は、地区内の全ての学校において「学校支援専門官による学校訪問」を実施させていただきました。それぞれの学校においては様々な課題を抱えながらも、保護者や地域と共に児童生徒のために取り組んでいる教職員の姿や笑顔で気持ちのよいあいさつをしてくれる児童生徒の姿などたくさん見せていただきました。ありがとうございました。

今年度も6月から「新たに地区内に転入された校長先生方の学校」を中心に訪問しています。現在、校長先生方との語りを中心となっていますが、今後

はもっと児童生徒の様子等を参観できる機会が増えればと考えているところです。

学校支援専門官は、教職員課に2人、各教育事務所に1人ずつが配置され、県内8人で各地区と県立学校を担当しています。この学校支援専門官は、学校や教育委員会が抱える「解決や対応が困難な事案等」について、初動のアドバイスをしたり、法令・通知等の根拠を明らかにしたりします。また、関係機関との連携など様々な視点から解決の糸口を見い出せるように、8人がチームとなってサポートにあたる場合もあります。

ただし、学校支援専門官は解決の主体となるものではなく、教育委員会や学校が、サポートやアドバイスを参考に、事案の性質や実情に応じて対応の判断をすることになります。学校支援専門官は、教育委員会の依頼によって、個別の支援に当たることや様々な事案対応の資料等を提供することと考えています。これまでの経験等を生かして、学校や教育委員会の業務をできるだけ手助けできればと考えていますのでよろしくお願いします。